

第6学年

「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」

～未来がよりよくあるためのテーマについて友達と意見を聞き合い、根拠となる出来事・資料、予想される反論とそれに対する考えを組み立てて、説得力のある意見文を書く～

★単元目標

- 意見文に説得力をもたせるよう、文章全体の構成の効果を考えることができる。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめることができる。

★単元計画

学習過程	時	主な学習活動	指導上の留意点（記号：手立て一覧表）
単元前			・学級文庫に現在の社会や自然環境についての本を教室に置き、児童が関心をもてるようにする（ d ）。
一次（つかむ）	構成の検討	1 ○モデル文を読み、意見文の構成の工夫を考え、学習課題を設定する。	・児童にとって身近なことを題材としたモデル文を提示し、意見文の構成の工夫を考えさせることで、学習課題に導く（ h' ）。
		2 ○学習課題を受けて、おおまかな学習計画を立てる。	
二次（深める）	題材の設定、情報の収集、内容の検討	3 ○自分はどのような未来にしたいかを考え、テーマを決定する。	・ウェビングを用いることで、自分の考え（青色の付箋）を整理することができるようにする（ n ）。
		4 ○自分の意見の根拠となる情報を、本などから調べる。	
		5 ○自分の意見の根拠となる情報を、本などから調べる。	
		6 ○自分の意見の根拠となる情報を、本などから調べる。	
		7 ○グループで意見を聞き合って、考えを深める。	
		8 ○「予想される反論と、それに対する自分の考え」を書く。	
	考えの形成、記述	9 ○付箋を並べ替えて、意見文の構成表を作成する。	・同じテーマの児童間で質問や助言をさせることで、具体的な理由を付け加えられるようにする（ p ）。
		○構成表をグループの友達と紹介し合い、必要に応じて修正する。	
		10 ○構成表を基に意見文を書き、推敲する。	
	構成の検討		・構成表のモデルを示すことで、説得力のある意見文の効果的な構成に気付けるようにする（ h' ）。
	推敲		・事前に示した到達基準を基に振り返りをさせることで、目的意識を明確にする（ j 、 j' ）。
	推敲		・到達基準の内容を観点として対話させることで、考えをより確かなものにできるようにする（ p' ）。
	推敲		・付箋通りに書き写すのではなく、必要に応じて言葉を付け加えるよう促す。

三次(まとめる)	共有	11	○意見文を読み合い、振り返りを行う。	・到達基準を基に学習を振り返らせることで、自分の学びを実感することができるようにする(j')。
単元後				・市の弁論大会で発表する児童の原稿を印刷して紹介することで、本単元で学習した意見文の構成の有用性について、実感することができるようにする(w)。

「手立て一覧表」に挙げられている手立ては、単元の第一次～三次のどの過程で取り入れるべきかも示してあるから、単元計画を立てるときのヒントになるね。



次頁からは、単元で取り入れた手立てのうち、特に成果が見られたものを中心に、授業の実際を紹介します（「★手立てを取り入れた授業の実際」）。

★手立てを取り入れた授業の実際

第一次

①②

／11

A 身に付けるべき力を意識して、単元のゴールを見通す。**B 課題を解決するための方策や道筋について、児童が自ら考える。****h'** モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。

この単元では、説得力のある意見文を書く学習をします。先生も、書いてみました。



プラスチックストローのことは、最近よく話題になるな…。

一人一人の力が大きな力に

安心な暮らしをずっと続けていく。私はこれがより良い未来に必要なことだと考える。そのためには、一人一人が環境を守る意識をし、小さなことでもいいからできることに取り組むことが大事だと思う。

以前テレビであるコーヒーストロー店のプラスチックストローが廃止されるというニュースを見た。気になった私はインターネットで調べた。その結果わかったのは捨てられたストローが、海亀や魚の体内に残り、命を奪っているということだった。いつも何気なく使っているストローが環境問題につながっているとは今まで気づきもしなかった。そして気づくと同時にこのまま自分が環境問題に対して何も良いたく思えなくなった。

ただ、一人が何か行動をしても大した変化はないという人もいるだろう。確かに一人だけ取り組んでも何も変わらないが、みんながそうやって何もしないと、環境問題はもっと悪化していく。「環境問題の一番の解決策は一人一人が意識を高めること」という言葉もある。一人だけでは何も変わらないが、それが広がってたくさんになることが、環境問題の解決策になるのではないだろうか。

環境が壊れてしまっただけで安心して暮らすことはできない。安心な暮らしをずっと続けるためには、一人一人が環境を守る意識をしないとけない。それが世界中に広がっていくと環境を守る大きな力になり、より良い未来につながっていくのだと思う。

資料 1 教師自作の意見文①（モデル文）

教師自作の意見文①（モデル文）（資料 1）を提示し、単元のゴールへのイメージをつかませるとともに、意見文とはどのような構成なのかを児童に考えさせました。その際、新出の指導事項である「予想される反論と、それに対する自分の考え」が入っていない、教師自作の意見文②（資料 2）を、電子黒板上で対比的に提示（次頁資料 3）することにより、身に付ける力にも気付くことができるようにしました。



こちらは、練習で書いてみた意見文です。うまく書けなかったのは、どの部分か分かりますか？

「予想される反論と、それに対する自分の考え」が入っていない。

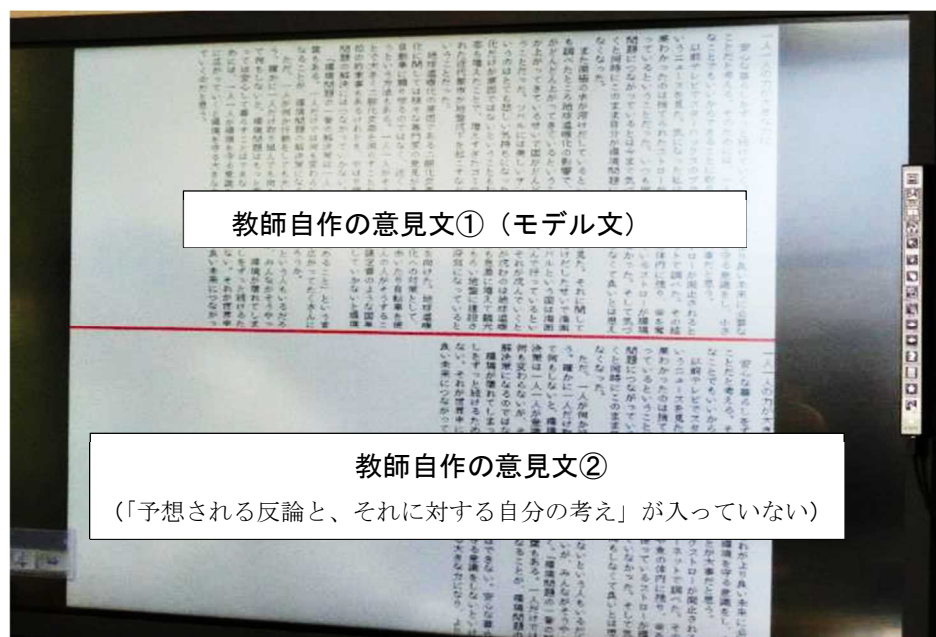
一人一人の力が大きな力に

安心な暮らしをずっと続けていく。私はこれがより良い未来に必要なことだと考える。そのためには、一人一人が環境を守る意識をし、小さなことでもいいからできることに取り組むことが大事だと思う。

以前テレビであるコーヒーストロー店のプラスチックストローが廃止されるというニュースを見た。気になった私はインターネットで調べた。その結果わかったのは捨てられたストローが、海亀や魚の体内に残り、命を奪っているということだった。いつも何気なく使っているストローが環境問題につながっているとは今まで気づきもしなかった。そして気づくと同時にこのまま自分が環境問題に対して何も良いたく思えなくなった。

環境が壊れてしまっただけで安心して暮らすことはできない。安心な暮らしをずっと続けるためには、一人一人が環境を守る意識をしないとけない。それが世界中に広がっていくと環境を守る大きな力になり、より良い未来につながっていくのだと思う。

資料 2 教師自作の意見文②



自分たちが書いた意見文が、新聞に載るかもしれないのか…。

①のような意見文を、書けるようになりたいな！

資料 3 教師自作の 2 つの意見文を対比的に提示

また、言語活動として、佐賀新聞のコラム欄「opinion」に投稿する意見文を書くことを伝え、児童の意欲を喚起しました。そして、新聞に載せるためには、初めて読んだ人でも納得できるような意見文にすべきであることを確認し、学習への目的意識をもてるようにしました。

 「環境問題にみんなが取り組んでいくことが大事」という意見文に納得したよ。	意見文というのは、相手を納得させる説得力が必要なんだね。 
 でも、説得力があるかどうかは、自分だけでは分からないんじゃないかな。	友達に聞いてもらいながら、説得力のある意見文を書きたいな。 

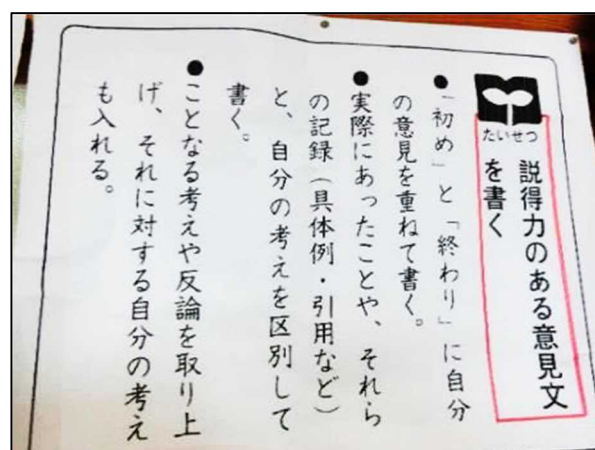
児童の気付きから学習課題を設定

学習課題

説得力のある構成で書く学習

自分の考えを深めるために意見を聞き比べ、新聞に投稿する意見文を書こう。

その後、2つの意見文の対比で気付いたことを基に、児童と学習計画を立てていきました。その際、教科書に記載された指導事項のまとめを拡大印刷して掲示（資料4）していたことで、「単元のゴールまでにどのような力を身に付けるべきなのだろう」と、児童自身が積極的に考える姿が見られました。



資料 4 教科書に記載された指導事項を掲示

教師自作の意見文を基に、児童は右のような構成で意見文を書くことについてまとめました。

その後、自分の意見の「根拠となる出来事・資料」、「予想される反論と、それに対する自分の考え」について、本で調べたり友達と対話したりしながら情報収集をしました。

〈説得力のある意見文の構成〉

1. 自分の意見
2. 根拠となる出来事・資料
3. 予想される反論と、それに対する自分の考え
4. 自分の意見とまとめ

第二次 ⑨／11

C 対話を通して、考えを確かなものにしたり、見直したりする。

p' 話し合う際の観点や目的を明確に示すことで、考えの広がりや深まりを促す。

構成の検討段階では、まず、教師自作の意見文の基となった構成表を教師が提示しました。次に、教師が自作の意見文①（モデル文）を仕上げるに当たり、構成表をどのように修正したのか実演してみせることで、児童自身が「構成表作りのポイント」に気付けるようにしました（資料 5）。



資料 5 教師による構成表修正の実演

教師による実演を通して、児童自身が導き出した「構成表作りのポイント」は、右の(1)と(2)です。この観点に沿って、個人で構成表作りの作業を整理した後、3人グループで互いの構成表について話し合いました。

構成表作りのポイント

- (1)「根拠となる出来事・資料」
 - ・出来事と資料の内容がより合っている付せんを選ぶ。
- (2)「予想される反論と、それに対する自分の考え」
 - ・反論への考えについて、根拠となる事実を付け加える。

この付箋は、反論に対する考えの根拠になると思うんだけど…どうかな。

「構成表作りのポイント」の(2)に当たるね。



話し合いの観点が明確であったことで、互いの考えを深める姿が見られました（資料 6）。

なるほど。付け加えていいと思うよ。その方が、説得力が増しそうだね。

資料 6 観点を基にグループで話し合う児童

D できるようになったことや、分かったことについて、その理由や根拠を考える。

实践事例②B校（第6学年）-7

単元後

W 単元で学んだことについて、日常生活の中で活用する場を設定することで、学びの習熟を図る。

本単元の学習後、市の弁論大会に向けて、自由なテーマで意見文を書かせました。B校の代表に選ばれた児童が、練習として全校児童の前で発表した後、発表原稿を印刷して学級の児童に配付しました。本単元で学習した、意見文の構成を基にして書かれていることに気付いた児童たちは、学習したことの意義を実感していました。説得力のある意見文の構成について、理解を深めることができたと考えます。

★本単元における授業改善の流れ（単元後）

授業改善の流れ	B教諭の意識	「授業改善ステップ表」と「手立て一覧表」の活用																				
(4)	○学習課題を立てる段階で、教師自作の2つの意見文を対比的に提示したことにより、本単元のねらいが焦点化され、児童は学習のゴールまでの見通しをもつことができたと考えられる（h'）。 ○ウェビングを用いて考えを整理させたり、色分けした付箋を用いて情報を整理させたことにより、児童にとって文章構成の工夫が視覚的にも分かりやすくなったと考えられる（n）。 ○児童が気付いた構成表作りのポイントを基に到達基準を設定したことで、単元のゴールが明確になった（j）。 ○構成表作りのポイントを踏まえているかという観点を到達基準として示したことで、話し合いの目的が明確になり、互いのよさや修正すべき点について活発な意見交流が見られた（j、p'、j'）。 ●対話によって、意見への反論に関する情報量を増やしたかったが、児童間で反論を考えることは難しかった。対話で考えを深める学習活動に重きを置いた単元計画が必要であった（p）。 ●学習を通して修正された構成表の例を学級全体に紹介し、どこがどのように改善したのかを話し合えば、学びを実感させることにつながるのではないかと（j'）。																					
取り入れた手立ての有効性の検討	 観点A、B、Dは、単元前より1つつステップアップできているぞ！ <table><tr><th></th><th>ステップ①</th><th>ステップ②</th><th>ステップ③</th></tr><tr><td>A</td><td></td><td>✓</td><td>◆</td></tr><tr><td>B</td><td>✓</td><td>◆</td><td></td></tr><tr><td>C</td><td></td><td>✓◆</td><td></td></tr><tr><td>D</td><td>✓</td><td>◆</td><td></td></tr></table>		ステップ①	ステップ②	ステップ③	A		✓	◆	B	✓	◆		C		✓◆		D	✓	◆		単元前の児童（✓）と本単元での児童（◆）
	ステップ①	ステップ②	ステップ③																			
A		✓	◆																			
B	✓	◆																				
C		✓◆																				
D	✓	◆																				
(5)	次の単元に向けた手立ての検討	 学習課題で、身に付けるべき力と具体的な学習活動（思考操作）についても明示したところ、単元のゴールへの見通しをもって学習に臨む児童が増えたよ（h'）。 次の単元では、児童の学習履歴や単元の特質に応じて学習過程に軽重を付けるiの手立ても取り入れることで、観点Cをステップアップしたい！！																				